

# タイ人日本語学習者のコロケーション習得に関する基礎研究 — 日本語「気」とタイ語「CAI」を含むコロケーションの比較 — ソムキャット タミ

## 1. はじめに

日本語「気」に類似する代表的なタイ語は「CAI」である。しかし「CAI」は日本語の「心」に相当する言葉でありながら「気」の意味にも含まれているため、タイ人日本語学習者にとって「気」のコロケーションを習得する際の誤用の要因になっているといわれている（チャワーリン2001）。このような類義語を含むコロケーションの習得においては母語の干渉を想定することができるであろう。そこで、本稿では「気」「心」「CAI」単独での辞書における意味記述と「気」「心」「CAI」のコロケーションの意味用法をそれぞれ整理し、その共通点と相違点を明らかにする。さらに、「気」及び「CAI」のコロケーションの類似性を詳細に分類し、その特徴を明らかにする。

## 2. 日本語の「気」「心」、タイ語「CAI」の辞書の意味記述

現代日本語において「気」という語はどのように定義されているのであろうか。辞書の意味を確認するために、『日本国語大辞典』と『広辞苑』の記述を以下に示す。

まずは『日本国語大辞典』によると、「気」の意味は以下のように記述されている。

1. 天地に生じる自然現象、空気・大気や、水蒸気などの気体である：例えば「山の気」
2. あたりに漂う雰囲気、心に感じる周囲の様子である：例えば「気が漂う」
3. ある物がもっている特有の香りや風味：例えば「気が抜ける」
4. 生命、意識、心などの状態や働き
  - ①息、呼吸：例えば「気が詰まる」
  - ②意識：例えば「気を失う」
  - ③心の働き：例えば「気を静める」
  - ④精神の傾向、気質：例えば「気が強い」
  - ⑤精神の盛り上がり、氣勢：例えば「気がみなぎる」
  - ⑥気分、気持ち：例えば「気が乗らない」

- ⑦配慮、心配、注意：例えば「気になる」
- ⑧興味、関心：例えば「気がある」
- ⑨心の動き、意志：例えば「やる気がある」と定義されている。

次に、『広辞苑』によると、「気」は「水蒸気」で古代中国から日本に輸入された言葉であり、意味は以下のように記述されている。

1. 天地間を満たすものと考えられるもの。また、天地間の動き：例えば「天気」
2. 生命の原動力となる勢い、精気、氣勢：例えば「気が強い」
3. 心の動き・状態・働きを包括的に表す語：例えば「気にする」
4. はっきりと見えなくても、その場を包み、その場に漂うと感ぜられる物：例えば「気が漂う」
5. その物本来の性質を形作るような要素、特有の香や味：例えば「気が抜ける」

つまり、『日本国語大辞典』と『広辞苑』における「気」の記述をまとめると、「気」は、空気や大気などの自然現象、場を包む雰囲気、そして、特有の香りや味といったそのものの性質を形作るような要素、心の動きや気分、興味という意味があることが分かる。

一方、現代日本語において「心」という語がどのように定義されているかを確認するため「気」と同様に、『日本国語大辞典』と『広辞苑』の記述を示す。

まず、『日本国語大辞典』によると、「心」は大和言葉であり、「人間の知的、情意的な精神機能をつかさどる器官、その働き「からだ」や「もの」と対立する概念として用いられる。また、比喩的にいろいろな事物の、人間の心に相当するものにも用いられる。精神、魂」である。そして、以下のように大まかに五つの意味が記述されている。

1. 人間の精神活動を総合していう。
2. 人間の精神活動のうち、知・情・意のいずれかの方面を特にとり出していう。
3. 人間の行動の特定の分野に関わりの深い精神活動を特にとり出していう。
4. 事物について、人間の「心」に相当するものを比喩的にいう。
5. 人体または事物について「心」にかかわりのある部位や「心」に相当する位置をいう。

次に『広辞苑』には、「こころ」の語源は動詞の「凝る」、また「ココル」から来ていると記述されている。動詞の「凝る」、「ココル」は「分散しているものが寄り集まってかたまる」ということである<sup>(1)</sup>。つまり「こころ」とは、そもそも

空気のようにふわふわと浮動していた人間のたましいが次第に凝りかたまってその形が作られたとされ、『広辞苑』では「心」の意味用法は以下のようにまとめられている。

1. 人間の精神作用のもとになるもの

- |                        |            |
|------------------------|------------|
| ①知識、感情、意志の総体。          | ②思慮。おもわく。  |
| ③気持。心待。                | ④思いやり。情け。  |
| ⑤情趣を解する感性。             | ⑥望み。こころざし。 |
| ⑦特別な考え。裏ぎり、或いは晴れない心待ち。 |            |

2. 比喩的に用いる

- |              |                      |
|--------------|----------------------|
| ①おもむき。風情。    | ②事情。                 |
| ③趣向。         | ④意味。                 |
| ⑤わけ。なぞ解きの根拠。 | ⑥内容。歌の主題、題材、発想などをいう。 |

3. ①心臓。胸。むなさき。 ②物の中心。

以上の辞書の意味記述から、日本語の「気」と「心」はその語源が異なっていることがわかる。また、「心の動き、感情、精神」という意味は共通しているものの、「自然現象、場を包む雰囲気」という意味は「気」に特有であり、「比喩的な趣向や風情を表す」という意味は「心」に特有であることも分かる。

次に、日本語の「気」「心」にあたるタイ語「CAI」の辞書の意味記述をまとめる。『タイ国語大辞典』（พจนานุกรม ฉบับราชบัณฑิตยสถาน พ.ศ. ๒๕๔๒, 2003）によると、「CAI」の意味は以下のように記述されている。

「CAI」は、「人間の一部を成し、思い、考え、認識、心臓、呼吸、（動物にも人間にもある）精神的な動き、情緒、感情、性質、気持ちを感じるもの（例えば：GUM UMCAI, MUNCAI, KRENCAI）であり、人間の善意、悪意の元や悟りの元、（転義で）靈魂である。または、物事の中心や重要部や心臓部」という意である。そして「CAI」、タイ文字が誕生した十三世紀スコータイ時代から現代までの長期間、その意味は固定し変化が見られなかった」と記述されている。

(pp.113、訳は筆者)

つまり、タイ語「CAI」は、「心の動き、感情、精神」という意味を持つという点では日本語の「気」「心」と同じであるが、「気」に特有の意味「そのものの本来の性質を形作するような要素、特有の香や味（例：気が抜ける）」という意味は持ち合わせていない。また「心」に特有の「比喩的な趣向や風情を表す」という意味も持ち合わせていない。一方、「人間の善意・悪意や悟りのもととなる最も重要な

役割を果たす靈魂」といった意味は「CAI」に特有の意味であると言える。

以上のことから、日本語「気」「心」とタイ語「CAI」の語の意味には、共通点と相違点があり、このことが、タイ人日本語学習者が「気」のコロケーションを理解する際の混乱の原因になっていることと推察される。次章では、上記の辞書の意味記述からだけでは十分に説明できない「気」「心」「CAI」の違いを明らかにするため、コロケーション研究の先行研究を整理する。

### 3. 日本語「気」「心」のコロケーションとタイ語「CAI」のコロケーションの先行研究

現代日本語における「気」のコロケーション研究は、日本語のみを扱った研究と、他言語と日本語の対照研究とに分けられる。本章では、「気」「心」「CAI」のコロケーションを扱った先行研究を概観し、その研究結果を比較したい。

#### 3. 1. 日本語「気」のコロケーションに関わる先行研究

本節では日本語「気」のコロケーションの意味用法を詳細に分類した戸田（1991）を紹介する。

戸田（1991）は、日本語の「気」のコロケーションを語構成ごとに整理し、その意味用法を詳細に調査した。戸田は145用例の「気」のコロケーションを取り上げ、意味カテゴリーを4つに分類した<sup>(2)</sup>。

- |                    |       |
|--------------------|-------|
| 1. 「気」＋が＋形容詞       | (16例) |
| 2. 「気」＋が＋自動詞       | (61例) |
| 3. 「気」＋に＋自動詞／他動詞   | (11例) |
| 4. 「気」＋を＋（修飾語）＋他動詞 | (57例) |

それぞれ意味カテゴリーは以下の10のグループである。

#### 1. 生命力、気力（12例）

「気が腐る、気が尽きる、気が痛む、気が弱る、気を腐らす、気を尽くす、気を吞まれる、気を吞む、気を病む、気を楽にする、気を吸う、気を煩う」

#### 2. 物事への積極的な心の働き、意欲（17例）

「気が後れる、気が落ちる、気が挫ける、気が洩る、気が進まない、気が詰まる、気が抜ける、気が乗る、気がはやる、気が塞ぐ、気が減る、気が減入る、気を入れる、気を落とす、気を挫く、気を抜く、気を吐く」

#### 3. 心の傾向、生まれつきの性質（17例）

「気が合う、気が（よ）いい、気が大きい、気が勝つ、気がすわる、気が小さい、気が強い、気が長い、気が早い、気が細い、気が短い、気が弱い、気が若

い、気に入る、気に食わない、気に染む、気を合わす」

4. 意志、考え（5例）

「気が変わる、気が知れない、気が済む、気に済む、気を通す」

5. 感情、気分（36例）

「気があらたまる、気が痛む、気がおさまる、気が沈む、気が静まる、気がする、気がせく、気が高ぶる、気が立つ、気が咎める、気がのぼる、気が弾む、気が張る、気が晴れる、気が引き締まる、気が引き立つ、気が引ける、気が紛れる、気が休まる、気が良くなる、気が悪い、気が悪くなる、気に障る、気を静める、気を損ずる、気を取り直す、気を直す、気を晴らす、気を引き締める、気を引き立てる、気を迎える、気を養う、気を休める、気を許す、気を良くする、気を悪くする」

6. 物事に対して有効に働く心、心遣い（7例）

「気が行く、気が利く、気が付く、気が通る、気が取りのぼす、気を利かせる、気を通す」

7. 色々と考える心、心配（23例）

「気が置ける、気が重い、気が軽い、気が差す、気が回る、気が揉める、気が緩む、気が楽になる、気に掛かる、気に掛ける、気にする、気に留める、気になる、気に痛む、気を痛める、気を兼ねる、気を砕く、気を留める、気を働かす、気を張る、気を回す、気を揉む、気を緩める」

8. 注意力、配慮（10例）

「気が逸れる、気が散る、気を奪われる、気を配る、気を逸らす、気を散らす、気を遣う、気を付ける、気を詰める、気を取られる」

9. 興味、関心（10例）

「気がある、気が移る、気が多い、気が無い、気が向く、気を移す、気をそそる、気を取る、気を引く、気を持たせる」

10. 心の働き、意識（8例）

「気が気でない、気が狂う、気が違う、気が遠くなる、気が触れる、気を失う、気を確かに持つ、気を触る」

戸田（前掲）は、上記のように、「気」のコロケーションの意味カテゴリーを分類し、日本語では「感情、気分（36例）」「色々と考える心、心配（23例）」の意味カテゴリーが目立ち、次に「物事への積極的な心の働き、意欲（17例）」「心の傾向、生まれつきの性質（17例）」という順序であることを明らかにしている。

3. 2. 日本語「気」「心」のコロケーションの意味用法比較に関する先行研究

日本語のみを扱った研究の中には、日本語における類似表現を比較した研究も見られる。

例えば日本語「気」「心」のコロケーションの意味用法を比較したチャワリン（2001）は、古代から現代にかけての日本語における「気」及び「心」の歴史的な用法を考察した上で、意味の変化と用法を整理した。まず、『広辞苑』『日本語大辞典』など七つの辞書の見出しから抽出した「気」のコロケーション（69例）、「心」（45例）をそれぞれ13の意味カテゴリー、15の意味カテゴリーに分類した（表1－1）<sup>(3)</sup>。

表1－1「気」「心」のコロケーションの意味カテゴリー

意味カテゴリー	「気」のコロケーション（69例）	「心」のコロケーション（45例）
1.気持ち、気分	気が重い、気が軽い、気が改まる、気が済む、気がせく、気が立つ、気が張る、気が晴れる、気がふさぐ、気が休まる、気を落とす、気が腐る、気を取り直す、気を緩める、気をよくする、気を悪くする、気を腐らす、気が滅入る、気に病む、気が変わる、気が紛れる、気を張る	心が沈む、心が弾む、心を痛める、心を躍らせる、心を汲む、心を悩ませる、心を致す、心を尽くす
2.意識	気が付く、気が遠くなる、気を失う	心に浮べる
3.自覚	気が狂う、気が違う、気が触れる	
4.意志	気が向く、気が進まない	心を決める、心を尽くす
5.やりたい気持ち	気がそがれる、気を入れる	心が強い、心が弱い
6.思慮、思い	気を利かせる	心にかける、心を交わす
7.考え、意思		心を遣る、心が通ずる
8.集中力	気が散る	心が乱れる、心を傾ける、心を凝らす
9.精力	気が尽きる、気が抜ける、気を尽くす、気を落とす、気を抜く、気を吐く、気を養う	心が挫ける
10.精神作用の元、又は魂		心に任せる、心が洗われる、心が通う、心を交わす
11.記憶		心にかける、心に刻む、心に染みる、心に留める、心に残る
12.不信、疑い	気が引ける、気が置けない、気を許す	心を開く、心を許す
13.関心、好意	気がある、気がない、気に入る、気に	心に入る、心に適う、心を奪わ

	食わない、気になる、気がある、気を引く、気が乗る、気を紛らわす、気を奪われる	れる、心を引かれる、心を移す、心をつかむ、心を寄せる
14.気質、性格	気が大きい、気が小さい、気が長い、気が短い、気が強い、気が弱い、気がいい、気が良い、気が細い、気が早い、気が荒い、気が多い、気が利く	心が狭い、心が広い、心を翻す、心を入れ替える
15.考え方	気が若い	心を入れ替える、心を翻す
16.息	気が詰まる	

チャワーリン（前掲）では、表1-1が示すように、中国から輸入された「気」は「気持ち、気分」、「関心、好意」、「気質、性格」などの意味カテゴリーで使われることが多いのに対して、和語である「心」は、「精神作用の元、又は魂」、「記憶」、「考え、意思」といった人間の道德心を表す意味が特徴であり、比較的かなり決まった意味で用いられる表現が多いことを明らかにした。つまり、「気」と「心」は意味と用法に重複が見られるものの、その語源の違いから異なる意味と用法が観察されたが、その境界線は非常に漠然としていると指摘している。

チャワーリン（前掲）のこの指摘は、語史的な起源に起因する意味用法のずれがある「気」と「心」の理解が、「気」「心」を含むコロケーションの意味理解にも影響を及ぼす可能性が高いことを意味していると言えよう。

### 3. 3. タイ語「CAI」のコロケーションに関わる先行研究

一方、タイ語「CAI」のコロケーションの意味用法を研究したものにはSukanya（2007）がある。Sukanyaは、『タイ語国語辞典』（พจนานุกรม ฉบับราชบัณฑิตยสถาน พ.ศ.๒๕๔๒. 2003、一版）の見出しから①「名詞+CAI」、②「CAI+名詞」、③「形容詞+CAI」、④「CAI+形容詞」、⑤「動詞+CAI」、⑥「CAI+動詞」の6つの構成語111用例を取り上げ、その意味カテゴリーを以下の四つに分類した。

#### 1. 「ลักษณะอุปนิสัย・気質、性格」

CAIRAI（無慈悲な）	CAIREU（気が早い）
CAIDEE（親切な、気がいい）	CAIKWANG（心が広い、寛大な、気前がよい）
CAIKAEB（心が狭い、狭量な）	CAITAEK（ぐれる、墮落する）
CAIRON（気の早い、気が短い）	CAIKAENG（気丈な）
CAIYEN（気が長い）	CAION（言いなりになり易い、すぐ同情する）
CAIYAI、CAITOA（気前のよい）	CAIPLASIU、CAISO（気の弱い）

CAINOI (僻みっぽい)  
CAIYAK (無情な、薄情な)  
CAIKWANG (気が大きい)

CAIKLA (勇敢な)  
CAINGAI (容易に男に身を任せる (女))  
CAIKAEB (気が小さい)

## 2. 「ลักษณะจิตใจ อารมณ์・精神状態」

- |                         |                            |
|-------------------------|----------------------------|
| ①情人：CAIBUN (慈悲心に富んだ)    | HENCAI (同情する)              |
| CAIPRA (慈善心のある)         | PLOBCAI (慰める)              |
| ②呼気：UD-ADCAI (気が詰まる)    | HAICAI (呼吸する)              |
| ③思いやり：LAMBAKCAI (心苦しい)  | SUNGWETCAI (かわいそうに思っている)   |
| PLUKCHAI (励ます)          | CAIDUM (思いやりがない)           |
| ④中心：HAMCAI (欲望を抑制する)    | SUENGCAI (感謝している、有難く思っている) |
| ⑤承諾、悟り：CHUCAI (満足)      | NAMCAI (気が済む)              |
| POCAI (気が済む、満足する)       | KLABCAI (改心する、心を入れ替える)     |
| ⑥期待：WANGCAI (安心する)      | MUNCAI (自信がある、人を信じる)       |
| TAICAI (信じられる)          | SHUEACAI (信頼する)            |
| ⑦真意、本心：SUKCAI (喜んでいる)   | LA-AICAI (羞恥心)             |
| CAIDEAU (誠実な)           |                            |
| ⑧集中：LUNG-LEICAI (迷っている) | KRAWONKRAWAICAI (気が気でない)   |
| PLURCAI (うっかりする)        | KHOMCAI、YUNGCAI (自制する)     |
| CAILOI (ぼんやりする、ぼうっとする)  |                            |

## 3. 「การสัมผัสความรู้สึก・感情、気持ち」

- |                         |                        |
|-------------------------|------------------------|
| DEECAI (気を良くする、うれしい)    | SIACAI (後悔する、気を落とす)    |
| SAOCAI (悲しむ)            | KLAENGCAI (疑っている)      |
| NUEAICAI (根気がなくなる)      | TOKCAI (驚く)            |
| TUKCAI (苦しんでいる)         | KHONGCAI (信じがたく思っている)  |
| KLUMCAI (気に病む)          | SABAICAI (気が晴れる、ほっとした) |
| BAOCAI (気が軽い、心が軽い)      | KAENCAI (くらんでいる、憎んでいる) |
| NAKCAI (気が重い)           | SHUMCAI、CHEBCAI (くやしい) |
| YENCAI (安心する)           | CAISUN、CAITEN (ドキドキする) |
| DEECAI (うれしい)           | RAMKANCAI (いらいらする)     |
| PIDCAI、MHANGCAI (仲違いする) | SHUENCAI (すかつとする)      |
| YONCAI、PAKCAI (気を休める)   | TUNGCAI (脇目もふらず)       |
| TAMCAIHAISABAI (気を楽にする) | SANGOBCAI (気を静める)      |
| NOKCAI (浮気)             | SAKIDCAI、E-CAI (気づかせる) |



TADCAI (諦める)	AUCAI (機嫌を取る)
CAISHUEN (気が楽になる)	TAMHAISIACAI (気を悪くする)
THODCAI (気を抜く)	TAMCAIHAIPLODPRONG (気を晴らす)
SANGOBCAI (気を落ち着ける)	MAIPHOCAL (気が立つ)
MUDCAI、CHUNGCAI、DUNGDU DCAI、NOMNAUCAI (心を動かす)	
RONCAI (気があせる、気がはやる、気が急ぐ、気が急ぐ)	
TAMCAIHAISABAI (気を楽にする)	TAMHAISABAICAI (気をよくする)

4. 「ด้วยจิตใจอารมณ์ที่แปรปรวน・精神状態の変化」を表す意味カテゴリーは三つに分けられた。

- |                              |                               |
|------------------------------|-------------------------------|
| ①意志：MEECAI (気がある)            | ROOCAI (心が通う)                 |
| SAICAI (心に入れる)               | PLIANCAI (気が変わる)              |
| ②関心、好意：SONCAI (気になる)         | TUUKCAI、DONCAI、TIDCAI、SHOBCAI |
| (気に入る) PRATABCAI (心に残る、感激する) | MAIMEECAI(気がない)               |
| MEEKAECAI (気が乗る)             | MAIMEEKAECAI (気が乗らない)         |
| MAIMEEKAECAI (気が進まない)        |                               |
| ③配慮、遠慮：KLUACAI (敬遠する)        | KHACAI (何らかの疑いを持っている)         |
| KRENGCAI (遠慮する)              | PLAEKCAI、PRALADCAI (不思議に思う)   |
- (原文タイ語、訳は筆者)

上記のように、Sukanya (前掲) はタイ語「CAI」のコロケーションは「感情、気持ち」「精神状態」「気質、性格」を表わす意味カテゴリーが多く見られることを明らかにした。

3. 4. 戸田 (1991)、チャワーリン (2001)、Sukanya (2007) の研究成果の対応

上記の戸田 (1991)、チャワーリン (2001)、Sukanya (2007) で明らかとなった意味カテゴリーを対応させた <sup>(4)</sup> のが、以下の表1－2である。

表1－2 「気」「心」「CAI」のコロケーションの意味カテゴリーの比較

順	意味 カテゴリー	「気」(145例)	「心」(45例)	「CAI」(111例)
1	生命力、 気力	気が腐る、気が尽きる、気が痛む、気が弱る、気を腐らす、気を尽くす、気を吞まれる、気を吞む、気を病む、気を楽にする、気を煩う、気が吸う	心が挫ける、心を病む	UD－ADCAI、HAICAI

2	物事への積極的な心の働き、意欲	気が後れる、気が落ちる、気が挫ける、気が洩る、気が進まない、気が詰まる、気が抜ける、気が乗る、気がはやる、気が塞ぐ、気が減る、気が減入る、気を入れる、気を落とす、気を挫く、気を抜く、気を吐く	心が折れる、心を交わす、心が通ずる	SAICAI、SONCAI、MEECAI、HAICAI、DAICAI
3	心の傾向、生まれつきの性質	気が合う、気が(よ)いい、気が大きい、気が勝つ、気がすわる、気が小さい、気が強い、気が長い、気が早い、気が細い、気が短い、気が弱い、気が若い、気に入る、気に食わない、気に染む、気を合わす	心が狭い、心が広い、心を入れ替える、心を翻す	CAIRAI、CAIREU、CAIDEE、CAIKWANG、CAIKAEB、CAITAEB、CAIRON、CAIKAENG、CAIYEN、CAION、CAIYAI、CAITOA、CAIPLASIU、CAISO、CAINOI、CAIKLA、CHAIYAK、CAINGAI、CAIKWANG、CAIKAEB
4	意志、考え	気が変わる、気が知れない、気が済む、気に済む、気を通ず	心を決める、心を尽くす	MEECAI、ROOCAI、SAICAI、PLIANCAI
5	感情、気分	気があらためる、気が痛む、気がおさまる、気が沈む、気が静まる、気がする、気がせく、気が高ぶる、気が立つ、気が咎める、気がのぼる、気が弾む、気が張る、気が晴れる、気が引き締まる、気が引き立つ、気が引ける、気が紛れる、気が休まる、気が良くなる、気が悪い、気が悪くなる、気に障る、気を静める、気を損	心が沈む、心が弾む、心を痛める、心を悩ませる、心を躍らせる、心を汲む、心を致す、心を尽くす、心を動かす、心を打たれる	DEECAI、SIACAI、SAOCAI、KLAENGCAI、NUEAICAI、TOKCAI、TUKCAI、KHONGCAI、KLUMCAI、SABAICAI、BAOCAI、KAENCAI、NAKCAI、SHUMCAI、YENCAI、CAISUN、CAITEN、DEECAI、RAMKANC AI、PIDCAI、MHA

		ずる、気を取り直す、気を直す、気を晴らす、気を引き締める、気を引き立てる、気を迎える、気を養う、気を休める、気を許す、気を良くする、気を悪くする		NGCAI, SHUENCAI, YONCAI, PAKCAI, TUNGCAI, TAMCAIHAISABAI, SANGOBCAI, NOKCAI, SAKIDCAI, ECAI, TADCAI, AUCAI, CAISHUEN, TAMHAISIACAI, THODCAI, TAMCAIHAIPLODPRONG, SANGOBCAI, MAIPHOCAL, MUDCAI, CHUNGCAI, DUNGDUCAI, NOMNAUCAI, RONCAI, TAMCAIHAISABAI, TAMHAISABAICAI
6	物事に対して有効に働く心、心遣い	気が行く、気が利く、気が付く、気が通る、気が取りのぼす、気を利かせる、気を通す		
7	色々と考える心、心配	気が置ける、気が重い、気が軽い、気が差す、気が回る、気が揉める、気が緩む、気が楽になる、気に掛かる、気に掛ける、気にする、気に留める、気になる、気に痛む、気を痛める、気を兼ねる、気を砕く、気を留める、気を働かす、気を張る、気を回す、気を揉む、気を緩める	心が騒ぐ、心を開く、心を許す	NAKCAI, BAOCAI, TAMCAI, SHAOCAI
8	注意力、配慮	気が逸れる、気が散る、気を奪われる、気を配る、気	心にかかる、心を砕く、心を配る、心を	KLUACAI, KHACAI, KRENGCAI, PLAEC

		を逸らす、気を散らす、気を遣う、気を付ける、気を詰める、気を取られる	尽くす、心を留める、心にかける、心を用いる、心を遣る	KCAI、PRALADCAI
9	興味、関心	気がある、気が移る、気が多い、気が無い、気が向く、気を移す、気をそそる、気を取る、気を引く、気を持たせる	心に入る、心に適う、心を奪われる、心を引かれる、心を移す、心をつかむ、心を寄せる、心が動く	SONCAI、TUUKCAI、DONCAI、TIDCAI、SHOBCAI、PRATABCAI、MAIMEECAI、MEEKAECAI、MAIMEEKAECAI、MAIMEEKAECAI
10	心の働き、意識	気が気でない、気が狂う、気が違う、気が遠くなる、気が触れる、気を失う、気を確かに持つ、気を触る		
11	集中力	気が散る（注意力・配慮も含めている）	心が乱れる、心を傾ける、心を凝らす	LUNG-LEICAI、KRAWONKRAWAICAI、PLURCAI、KHOMCAI、YUNGCAI、CAILOI
12	本心		心を込める	SUKCAI、LA-AICAI、CAIDEAU
13	精神作用の元、魂		心に任せる、心が洗われる、心が通う、心を交わす	
14	記憶		心にかける、心に刻む、心に染みる、心に留める、心に残る	
15	思いやり			LAMBAKCAI、SUNGWETCAI、PLUKCHAI、CAIDUM
16	期待			WANGCAI、MUNCACAI、TAICAI、SHUEACAI
17	中心			HAMCAI、SUENGCAI

18	承諾、悟り		NAMCAI、POCAI、KLABCAI、CHUCAI
19	情人		CAIBUN、HENCAI、CAIPRA、PLOBCAI

上記の表1-2の結果、「気」「心」「CAI」のコロケーションは同じ意味カテゴリーで使われるコロケーションが多いことが明らかであるが、それぞれに独特な意味のコロケーションもあることが分かる。つまり、「心の働き、意識」「物事に対して有効に働く心、心遣い」という意味カテゴリーは「気」のコロケーションに特有の意味用法である。また、「精神作用の元、魂」「記憶」は「心」のコロケーションに特有な意味用法である。一方、動物にも人間にもある精神的な動き、人間の道徳心・靈魂をあらわす「思いやり」「期待」「中心」「承諾、悟り」「情人」という意味カテゴリーはタイ語「CAI」のコロケーションにのみ観察された。

#### 4. 日本語「気」とタイ語「CAI」コロケーションの類似性について

##### 4. 1. 調査対象とする「気」のコロケーション

本章では、「気」のコロケーションをタイ語に逐語訳し、「CAI」のコロケーションとの類似性の観点から類型化し、詳細に比較した。調査対象とする「気」のコロケーションは以下の手順で選定した。

- (1) 「気」のコロケーションのうち、『日本国語大辞典』（小学館、2000、二版）の見出しのうち、動詞または形容詞との組み合わせのコロケーション224例を取り出した。その結果、本研究が対象とする形態①～⑤それぞれのコロケーションの数は以下のとおりであった。

①「気」＋が＋形容詞／動詞	69例
②「気」＋に＋動詞	17例
③「気」＋を＋動詞	54例
④「気」＋で＋動詞	2例
⑤「気」＋の＋形容詞	1例

さらに、上記のうち、④⑤は用例数が少ないため、今回の調査対象から除外し、221例とした。

- (2) (1) で限定した221例のコロケーションについて、『NINJAL-LWP for TWCコーパス』を用い、使用頻度を調査した結果、実際に使用されている「気」のコロケーションは140例であった<sup>(5)</sup>。
- (3) さらに、(2) で限定した 140 例のコロケーションのうち、『日本国語大辞典』（小学

館.2000.二版)の意味用法に2つ以上の記述があるもの29例を選定した。

#### 4. 2. 「気」及び「CAI」のコロケーションの類型、意味的類似性に関する全体的傾向

4.1.で選定した「気」のコロケーション140例について、タイ語「CAI」のコロケーションと類型、意味的類似性を比較する。本稿では「気」のコロケーションを構成する語をそれぞれタイ語に逐語訳し、日本語「気」のコロケーションと逐語訳されたタイ語が類型的、意味的にどのような類似性を持っているかに着目した<sup>(6)</sup>。「気」の意味用法は『日本国語大辞典第二版』、「CAI」の意味用法は『พจนานุกรมฉบับราชบัณฑิตยสถาน พ.ศ. ๒๕๔๒』『พจนานุกรมไทยฉบับทันสมัยและสมบูรณ์』の記述を用いた。

その結果、「気」のコロケーションをタイ語に逐語訳した場合の、類型、意味的類似性には以下のようなパターンが存在した。

A. 「気」(+助詞) + 「動詞・形容詞」が、タイ語「CAI」 + 「(日本語と同じ意味の) 動詞・形容詞」で表されるもの。

A-①. 意味用法として挙げられているすべての用法が一致しているもの。

例)「気が合う」は、タイ語に逐語訳すると「ใจตรงกัน・caitrongkan」である。このコロケーションは「CAI」と「trongkan」がむすびついており、意味用法は「気が合う」と同じである。つまり日本語と同様の意味と類型である。

A-②. 意味用法として挙げられている用法の一部が一致しているもの。

例)「気が良い」には意味記述①「気持ちが良い、快い、愉快である」、意味記述②「気持ちが素直である、気立てがいい」という二つの意味が記述されている。一方、タイ語に逐語訳した「ใจดี・caidi」は意味記述①「気立てがいい」、意味記述②「優しい、親切な人」という二つの意味がある。「気がよい」の意味記述②は「ใจดี・caidi」の意味①と一致しているが、その他の意味は独自のものである。

B. 「気」(+助詞) + 「動詞・形容詞」がタイ語「CAI」のコロケーションで表せないもの。

例)「気が利く」は逐語訳すると「CAI」を含むコロケーションでは表せないものである。「気が利く」の二つの意味用法はタイ語の「ฉลาด(มีไหวพริบ)・chalad.(meewaiphrib)」と、「ปรับแต่ง(สวยงาม)・Praptaeng (Suai-ngam)」というコロケーションと対応する。つまり、「CAI」のコロケーションでは表せない。

140例を上記のように分類した結果は、以下の通りであった。

A-①: 85例

A-②: 20例

B: 35例

この結果から明らかになったことは以下の2点である。

- (1) 日本語「気」で表される140例のうち、85例はタイ語「CAI」のコロケーションと同じ形態で表すことができる。つまり、日本語「気」とタイ語「CAI」は典型的に非常に類似していると言える。
- (2) 日本語「気」で表される140例のうち、105例は「CAI」のコロケーションでも言い換えられるが、35例は「CAI」では表せない。つまり、「気」のコロケーションのほうが「CAI」のコロケーションより数が多く、意味も多様であるということである。

以上のような類型が類似しているという傾向はタイ人日本語学習者にとって「気」のコロケーションの習得が困難であることの証左となるであろう。

#### 4. 3. 二つ以上の意味用法を持つ「気」及び「CAI」のコロケーションの種類の類似性の比較

本節では、4.2で取り上げた140例の「気」のコロケーションのうち、辞書に二つ以上の意味用法が記述されているコロケーション29例を取り上げ、「CAI」との種類の類似性を詳細に分析する。「気」のコロケーションをタイ語に逐語訳した場合には、日本語をタイ語で逐語訳できる場合Aと、逐語訳できない場合Bの大きく2つのパターンがある。

調査の結果、A.「気」(+助詞)+「動詞・形容詞」が、タイ語で「CAI」+「(日本語と同じ意味の)「動詞・形容詞」で表されるもの」は、29例中23例、「A-①「気」+動詞または形容詞がタイ語で「CAI+日本語と同じ動詞形容詞で表され、かつそれぞれの意味用法がすべて一致しているもの」は3例、「A-②それぞれのコロケーションの意味用法として挙げられている用法の一部が一致しているもの」は20例であった。またB.「気」(+助詞)+「動詞・形容詞」がタイ語「CAI」のコロケーションで表せないものは6例であった。

さらに、A-②は意味用法の一致のしかたによって、3つのパターンに下位分類することができる。

図1に分類パターンの全体像を示した。また図2～6には意味用法の重なりを図示し、具体例を示した。

図1 「気」のコロケーションと「CAI」のコロケーションの類型の類似性

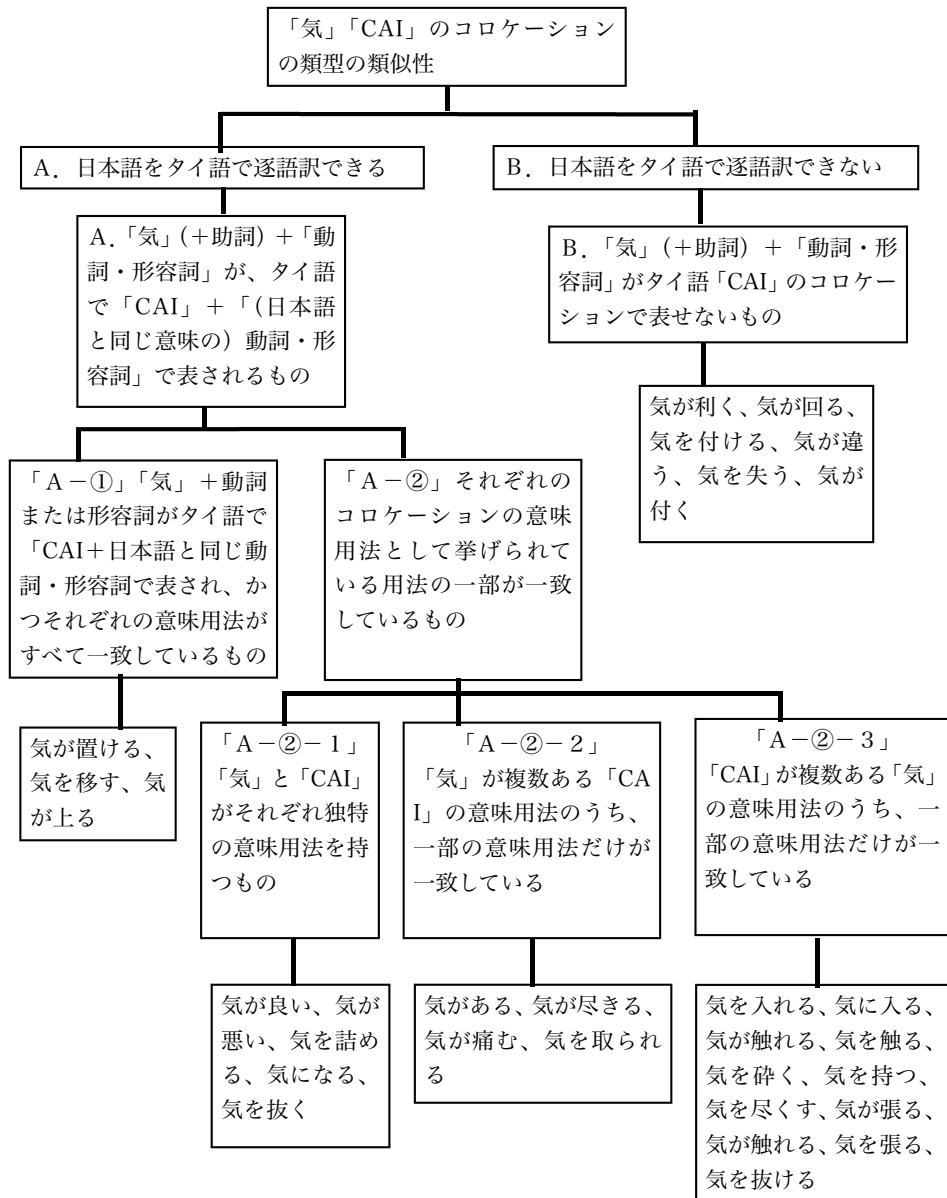




図2. 「A-①」: 「気」と「CAI」が全ての意味用法が同じであるもの

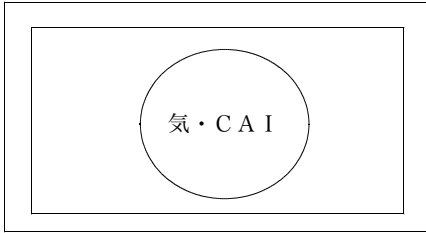


図3. 「A-②-1」: 「気」と「CAI」がそれぞれの独特の意味用法を持つもの

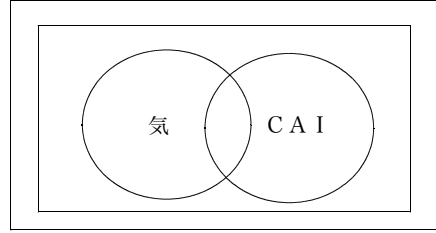


図4. 「A-②-2」: 「気」が複数ある「CAI」の意味用法のうち、一部の意味方法だけが一致しているもの

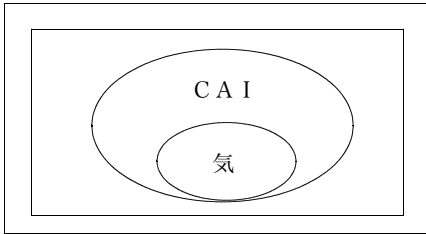


図5. 「A-②-3」: 「CAI」が複数ある「気」の意味用法のうち、一部の意味方法だけが一致しているもの

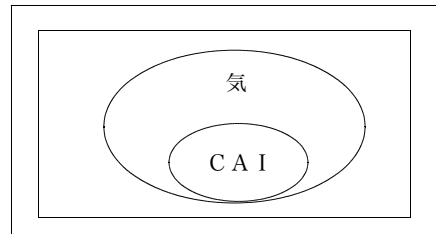
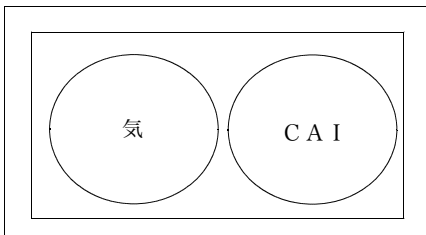


図6. B 「気」(+助詞) + 「動詞・形容詞」がタイ語「CAI」のコロケーションで表せないもの



上記の図2～図6に示されるコロケーションの種類の類似性の具体例は以下の通りである。

図2. 「A-①」は、それぞれのコロケーションの意味用法として挙げられている全ての用法が一致しているパターンである。例えば、「気を移す」は『日本国語大辞典』には2

つの意味記述①「気を他に移す、気持ちを変える」という意味と、意味記述②「心を向ける」という意味がある。一方、タイ語に逐語訳した「เปลี่ยนใจ・pliancai」というコロケーションにも辞書には2つの意味記述があるが、その2つは全て日本語の意味記述と一致している。このような例が3例あった（「気を移す」「気が上る」「気が置ける」）。

図3. 「A-②-1」は、「気」と「CAI」が一致する意味とそれぞれ独自の意味を両方もつパターンである。例えば、「気がよい」には意味記述①「気持ちがよく、快い、愉快である」、意味記述②「気持ちが素直である、気立てがいい」という二つの意味が記述されている。一方、タイ語に逐語訳した「ใจดี・caidi」は意味記述①「気立てがいい」、意味記述②「優しい、親切な人」という二つの意味がある。「気がよい」の意味記述②は「ใจดี・caidi」の意味記述①と一致しているが、その他の意味記述は独自のものである。このような例が5例あった（「気が良い」「気が悪い」「気を詰める」「気になる」「気を抜く」）。

図4. 「A-②-2」は、複数ある「CAI」の意味用法の中に、「気」の意味用法が全て含まれているパターンである。例えば、「気がある」の意味記述は、①「関心がある、心が傾く」という意味と②「恋心を抱いている」という二つの意味記述がある。一方、タイ語に逐語訳した「สนใจ・miicai」は辞書に①「関心、興味がある」、②「恋する」、③「配慮する」という3つの意味記述があり、意味記述①と②の意味は「気がある」と一致している。このような例が4例である（「気がある」「気が尽きる」「気が痛む」「気を取られる」）。

図5. 「A-②-3」は、複数ある「気」の意味用法の中に「CAI」の意味用法が全て含まれているパターンである。例えば、「気に入る」は意味記述①「心になく、満足する、好きになる」、意味記述②「機嫌をとる、取り入る、あやす」という意味がある。一方タイ語「พอใจ・phoacai」には「満足する」という意味があり、「気に入る」の一つ目の意味と一致しているが、「気に入る」の2つ目の意味はなかった。このような例が11例あった（「気を入れる」「気を触る」「気が触れる」「気を張る」「気が張る」「気が抜ける」「気を尽くす」「気を持つ」「気を置く」「気を砕く」「気に入る」）。

図6. Bは、「気」（＋助詞）＋「動詞・形容詞」がタイ語「CAI」のコロケーションで表せないパターンである。例えば、「気が利く」の意味記述①「物事をするのに細かなところまでよく気が付く、心が行き届く、機転が利く」、意味記述②「しやれている、粋である、おつである」という意味がある。一方、タイ語に逐語訳した場合、そのコロケーションは意味を持たない。つまり、「気が利く」の意味記述①はタイ語の「ฉลาด(มีไหวพริบ)・chalad (meewaiphrib)」と対応し、「気が利く」意味記述②は「ปรินแต่ง(สวยงาม)・Praptaeng (suai-ngam)」というコロケーションと対応し、いずれも「CAI」は使われないものである。このような例が6例あった（「気が利く」「気が回る」「気を付ける」「気を失う」「気が付く」「気が違う」）。

以上の結果、辞書に二つ以上の意味記述がある「気」のコロケーション29例と「CAI」のコロケーションの種類の類似性について、以下の3点が指摘できる。

- ①日本語と同じ意味の動詞・形容詞で表すことができる「CAI」のコロケーション23例のうち、「A-①」タイ語「CAI」で「気」のコロケーションの意味用法全てを表すことができるものは3例しか見られなかった。つまり、「気」と「CAI」のコロケーションは意味用法にずれがある場合が多いということが明らかである。
- ②日本語「気」で表される29例のうち、23例はタイ語「CAI」と同じ形態のコロケーションで表すことができるが、その中の「A-②-1」の5例は「気」と「CAI」がそれぞれの独特な意味用法を持っている。つまり、「気」「CAI」のコロケーションは同じ意味用法と、それぞれに特徴的な意味用法を持っている。
- ③日本語「気」で表される29例のうち、23例はタイ語「CAI」のコロケーションと同じ形態で表すことができるが、その中「A-②-4」の9例は複数ある「気」の意味用法の一部の意味方法だけが「CAI」と一致していた。つまり、日本語「気」のコロケーションはタイ語「CAI」のコロケーションでは表すことができない意味用法が含まれており、その点で「気」のコロケーションのほうが多様な意味を表しうることが分かる。

以上の指摘は、タイ人日本語学習者が「気」のコロケーションを習得する際にも何らかの影響を与えていると推察できる。

## 5. おわりに

以上、日本語「気」とタイ語「CAI」を含むコロケーションについて、先行研究を概観し、種類の類似性に着目した調査を行った。その結果明らかになった点は以下の通りである。

- ①辞書における「気」「心」「CAI」の意味記述から明らかになった類似性

主要辞書の意味記述を見ると、タイ語「CAI」は、「心の動き、感情、精神」という意味を持つという点では日本語の「気」「心」と同じであるが、「そのものの本来の性質を形作るような要素、特有の香や味」は「気」の特有の意味である。また「心」は「比喩的な趣向や風情を表す」というのが特有の意味である。一方、「人間の善意・悪意や悟りの元となる最も重要な役割を果たす霊魂」といった意味は「CAI」の特有の意味である。さらに、「気」「心」「CAI」の意味カテゴリーは共通するものが多くみられるが、複雑に重複していることが分かった。「気」に特有の意味は「心の働き、意識」「物事に対して有効に働く心、心遣い」である。「心」に特有の意味カテゴリーは「精神作用の元、魂」「記憶」である。「CAI」は「思いやり」、「期待」、「中心」、「承諾、悟り」、「情人」の意味カテゴリーである。

## ②「気」「CAI」を含むコロケーションの類型の類似性

日本語「気」をタイ語に逐語訳した結果、「気」のコロケーションとタイ語の類型のパターンでは、「A—②：意味用法として挙げられている用法の一部が一致しているもの」が最も多く見られる。つまり、「気」「CAI」のコロケーションは同じ意味用法を持っているという共通点があったが、それぞれ特徴的な意味を持っているという相違点も明らかにした。また、日本語「気」のコロケーションにはタイ語「CAI」のコロケーションでは表すことができない意味用法が含まれており、その点で「気」のコロケーションのほうが多様な意味を表しうることが分かった。

以上の指摘から、タイ人日本語学習者のコロケーション習得についての仮説を立てることが可能である。つまり、「気」のコロケーション習得における誤用の要因を母語干渉に焦点を当てて考えると、「A—①：意味用法として挙げられている全ての用法が一致しているもの」はタイ人学習者にとって誤用を起こす要因となる可能性は低いと推測される。一方で、「A—②：そのコロケーションの意味用法として挙げられている用法の一部が一致しているもの」と「B：「気」(+助詞) + 「動詞・形容詞」がタイ語「CAI」のコロケーションで表せないもの」は習得が困難で誤用の発生率が高いと予想できる。今後、本研究で明らかになった「気」「心」「CAI」の意味、及びそれらを含むコロケーションの類型の類似性がタイ人日本語学習者のコロケーション習得にどのように影響を及ぼすのか、明らかにしていく必要がある。

## 参考文献

- チャワーリン サウエットナン (2001) 「/CAI /と「気」—タイ語と日本語の対照的研究—」『日本文化環境論講座紀要』第3号、pp.39—62
- 鄭秀賢 (1996) 「「気」の語句をめぐる表現の日・韓対照研究」『日本語学』第15巻7月号 pp.69-74
- 戸田利彦 (1991) 「日本語教育のための語彙の基礎的研究(1)—「気」の慣用句の意味・用法を中心に—」『中国四国教育学会・教育学研究紀要』第37巻、第二部
- 新村出編 (1998) 『広辞苑 第五版』岩波書店
- 日本国語大辞典第二版編集委員会 (2000) 『日本国語大辞典 第二版』小学館
- คณะกรรมการข้าราชการพลเรือน ราชบัณฑิตยสถาน (2003) 『พจนานุกรม ฉบับราชบัณฑิตยสถาน พ.ศ. ๒๕๔๒』 จัดพิมพ์โดย บริษัทนานมีบุ๊คส์พับลิเคชันส์จำกัดเลขาฯ
- ฝ่ายวิชาการภาษาไทย บริษัท ซีอีดูเคชั่น จำกัด มหาชน (2009) 『พจนานุกรมไทย ฉบับทันสมัยและสมบูรณ์』 ซีอีดูเคชั่น, บมจ
- สุกัญญา รุ่งเรือง・Sukanyarungraeng (2009) 「อุปลักษณะเชิงโน้ตของการใช้คำว่า “ใจ” ในภาษาไทย」『ปริญาศิลปศาสตรมหาบัณฑิต สาขาวิชาภาษาศาสตร์ คณะศิลปศาสตร์ มหาวิทยาลัยธรรมศาสตร์』

参考URL

筑波大学・国立国語研究所・Lago言語研究所『NINJAL-LWP for TWC』(<http://nlt.tsukubalagoinst.info>) (2016年12月25日 閲覧)

注

- (1) 例えば、水が凝り固まったものを「こおり (氷)」といい、魚の煮汁などを冷やして凝固したものを「煮こごり」と呼ぶ。さらに、日本の神話では日本のことを「自凝島」と言って「おのずから凝り固まった島」という意味で表わしている。
- (2) 戸田 (1991) は語構成のうち、「気+は／も／の+名詞」を除いた145例を対象としている。
- (3) チャワーリン (2001) に挙げられているコロケーションを筆者が表1-1にまとめた。
- (4) Sukanya (2009) の研究結果を、戸田 (1991)、チャワーリン (2001) の意味カテゴリーの研究成果に基づき、筆者の判断で「気」「心」「CAI」の意味カテゴリーを対応して比較する。
- (5) 『NINJAL-LWP for TWCコーパス』に用いる140例の「気」のコロケーションの使用出現頻度は以下の表1-3に示す。

表1-3 「気」のコロケーションの出現頻度

「気」のコロケーション140項目の使用出現度								
順	コロケーション	件数	順	コロケーション	件数	順	コロケーション	件数
1	気がする	104645	48	気が紛れる	192	95	気を合わせる	15
2	気になる	98455	49	気を回す	191	96	気を下す	15
3	気に入る	50254	50	気が短い	189	97	気を運ぶ	14
4	気を付ける	48207	51	気が大きい	175	98	気を張る	14
5	気にする	45604	52	気が晴れる	168	99	気をそそる	13
6	気が付く	15914	53	気が入る	167	100	気を励ます	12
7	気を使う	7626	54	気を落とす	166	101	気が若い	11
8	気を配る	4934	55	気が知れない	146	102	気に染む	10
9	気に掛ける	2823	56	気が良い	136	103	気を置く	10
10	気が無い	2422	57	気が悪い	134	104	気に済む	10
11	気がある	2302	58	気が立つ	99	105	気が上る	9
12	気を遣る	1834	59	気を補う	95	106	気に進まない	8
13	気を取られる	1783	60	気が多い	94	107	気が勝つ	6
14	気に掛かる	1442	61	気を吐く	88	108	気が減る	6
15	気を抜く	1375	62	気を奪われる	86	109	気を揃える	6
16	気を取り直す	1365	63	気を散らす	81	110	気に向く	6

17	気が向く	1275	64	気を直す	76	111	気が開く	6
18	気を失う	1218	65	気が置ける	71	112	気が張る	6
19	気が引ける	1047	66	気がいい	68	113	気を移す	5
20	気に食わない	1014	67	気が違う	66	114	気を負う	5
21	気が合う	1010	68	気が咎める	65	115	気を尽くす	5
22	気が抜ける	908	69	気が上がる	64	116	気が浮く	4
23	気が遠くなる	771	70	気が軽い	62	117	気を詰める	4
24	気を引く	768	71	気を養う	61	118	気に当たる	4
25	気が強い	742	72	気が長い	58	119	気を腐らす	4
26	気が重い	647	73	気を変える	46	120	気を痛める	4
27	気が進まない	574	74	気が触れる	46	121	気を引き立てる	3
28	気が利く	572	75	気を利かす	45	122	気が練れる	3
29	気が済む	556	76	気が高い	42	123	気を砕く	3
30	気が減入る	516	77	気を得る	42	124	気を屈す	3
31	気が変わる	498	78	気を病む	40	125	気を静める	3
32	気が弱い	455	79	気を込める	36	126	気を転じる	3
33	気を持つ	452	80	気が沈む	35	127	気が痛む	3
34	気を揉む	425	81	気が通る	34	128	気が支える	2
35	気が散る	411	82	気がふさぐ	27	129	気が尽きる	2
36	気に障る	380	83	気を晴らす	26	130	気が閉じる	2
37	気が緩む	365	84	気を休める	26	131	気に当てる	2
38	気に病む	346	85	気をとめる	25	132	気が引き立つ	2
39	気を許す	331	86	気がはやる	21	133	気を兼ねる	1
40	気を緩める	326	87	気が揉める	19	134	気を急く	1
41	気が回る	315	88	気が弱る	17	135	気を迎える	1
42	気を出す	286	89	気に持つ	17	136	気が外れる	1
43	気が小さい	242	90	気にとまる	16	137	気を立てる	1
44	気が早い	234	91	気が戻る	16	138	気を触る	1
45	気が休まる	205	92	気が急く	16	139	気が差す	1
46	気を入れる	201	93	気が詰まる	15	140	気がはずむ	1
47	気が乗る	200	94	気に合う	15			

(6) 鄭 (1996) は日本語「気」の語句及び慣用句における意味合いの類型を韓国語との対照を通じて整理している。本稿でも鄭 (1996) の研究方法に倣い、「気」のコロケーションを類型化した。

(本学大学院生)